

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)／山田
啓明

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

大学で学ぶ内容で教師にとり必要な知識や技能には、例えばイ)教師になってからでも学べるもの、教師になってから学んでも遅くはないもの、ロ)教師になる(教員採用試験に受かる)ために必要なもの、ハ)大学のような場で指導を受けながら集中的に学習することでしか身につかないもの、の3つに大別できよう。音楽における理論や実技は、上記のロ)やハ)に属するものとする。今までは、教師として必要な知識、技能としてハ)に属するものまで総花的に教えて来たが、特に保育内容においては①ピアノの弾き歌いやソルミゼーションなどを、②マスタークラス(公開レッスン)方式で、③ただし、個人差があまりにも大きいので、評価は個人の進度に応じて柔軟に、授業を展開してゆきたい。

2. 点検・評価

2013年度後期は全学で小学校課程用の教科内容の教科書を作る事となった。それに関してソルフェージュの項目を担当、また他の項目における譜例や写真等の作成も担当した。他の教員との協議にずいぶんと時間をかけたが、ページ数など様々な制約の中でそれなりのものは出来たと思う。特に「学習成果のチェックリスト」を発案した事はこのテキスト作成作業において大きな貢献だったと自負している。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

今年は、昨年度から持ち上がって学部2年次の学年担任を担当する。卒業研究の分野を決めることになる大切な時期なので、個別に相談に乗りながら、学生達をサポートしてゆきたい。教員採用試験対策としては、例年どおり、希望者には前期に聴音の特別授業を設ける。また、音楽学分野の教員が欠けていることを補うために、自分が担当する授業で実施している音楽史や音楽理論の小テストの内容をさらに精選、充実して、一人でも多くの学生が教員になるという夢を叶えることを助きたい。

2. 点検・評価

2年次後期は学生生活の中で中だるみの時期であり、学修キャリアノートの提出の遅れが目立った。年度中に提出する様に指導し、一応2013年度中に全員が提出。授業省察記録を読んで指導できたことでほっとしている。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

2013年
7月七夕コンサート(徳島)
7月ベートーヴェン第九演奏会(大分)
8月小川明子アルトリサイタル(東京)
9月日本歌曲CD制作レコーディング(東京)
12月大分大学医学部管弦楽団定期演奏会(大分)
2014年
1月徳島交響楽団ニューイヤーコンサート(徳島)
2月小川明子アルトリサイタル(静岡)

2. 点検・評価

3月25日に日本歌曲のCDがリリースされ、このCDが4月発売の『レコード芸術』誌(音楽之友社)に取り上げられ、推薦版として評価された。なお、演奏会としては上記年度目標、中間報告に加え、以下の演奏会に出演した。

2013年8月
東京藝術大学パッサンタクラブ特別演奏会(東京)
10月
夢ホールホワイエコンサート(徳島)
フラウリッヒ・ヴォカール4th.Concert(徳島)
2014年3月
コーラス9第8回、スプリングコンサート(徳島)
鳴門アカデミー合唱団第1回演奏会(徳島)

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

今年は2期目になるが、一昨年、昨年に引き続き学部入試委員を務めることとなった。非常に責任の重い業務だが、ミスの起きない様業務を全うしたい。
上記以外では附属学校運営委員を務める予定である。

2. 点検・評価

学部教務委員としての業務を支障無く務めることができた。
なお、11月21日、県立池田高校に「進路ガイダンス」講師として赴いた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

現在のところ、まだ特に依頼はないものの、もし依頼があれば、コンクールの審査員や講習会の講師などを務めるつもりである。

2. 点検・評価

上記以外に、サンポート高松で行なわれた演奏会のオーディションの審査員を務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

とくになし